

鞍 川 D 遺 跡 II

民間ドラッグストア建設に伴う発掘調査報告

2014年6月

氷見市教育委員会

序

東に富山湾を隔てた靈峰立山を仰ぐ氷見市は、古くから海の幸、山の幸に恵まれ、人々の生活の場として、数多くの文化遺産を生み育んできました。それら郷土に残る文化財は先祖より受け継がれてきたものであり、私たちはあらためてその歴史的、文化的価値を再認識しながら、末永く子孫に引き継いでゆかねばなりません。

このたび発掘調査の対象となった鞍川地区は、地名の由来に木曾義仲にまつわる伝承が残り、室町・戦国時代の国人士豪、鞍河氏の本拠地と伝えられる地でもあります。また、周辺には縄文時代から中世にかけての遺跡が集中し、古くから上庄川下流域の平野部が人々に利用されてきたことを教えてくれます。

この鞍川地区は、能越自動車道氷見ICのアクセス道路が地区内を横断することに加え、平成23年度には金沢医科大学氷見市民病院が開業、本年5月には旧有磯高校体育馆を再利用した氷見市新市庁舎がオープンしたことにより、今後も開発が進められていくことが予想されます。そうした状況のなかにあって、教育委員会としては遺跡の保護と開発との調整に、より一層尽力していく必要があろうかと思います。

今回、鞍川D遺跡を対象として実施した発掘調査では、狭い面積での調査ではありましたが、中世を中心に興味深い調査成果を残すことができました。これら調査の成果を、鞍川地区、ひいては氷見地域の歴史に思いを馳せる手がかりとしていただければ幸いです。

おわりになりましたが、発掘調査にあたり文化財保護の趣旨にご理解とご協力をいただきいた関係者の皆様、そのほかご指導、ご協力を賜りました多くの方々にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

平成26年6月

氷見市教育委員会
教育長 前辻 秋男

例　　言

- 1 本書は、平成25年度に調査を実施した富山県氷見市鞍川地内に所在する鞍川D遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、民間ドラッグストア建設に先立ち、株式会社示野薬局の依頼を受けて、調査主体者である氷見市教育委員会の監理の下、株式会社エイ・テックが実施した。
- 3 整理作業、報告書作成・編集は平成25年度から平成26年度にかけて実施した。
- 4 調査面積は165.2m²である。
- 5 調査期間は、平成25年12月3日～平成25年12月13日（実働4日）である。
- 6 調査事務局は、氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課に置いた。事務担当者は次のとおりである。
- 課　　長：坂本研資
　副　主　幹：大野　究
　文化総括担当：布尾　誠
　主任　学芸員：廣瀬直樹
- 7 発掘調査担当者は次のとおりである。
- 監　督　員：氷見市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 廣瀬直樹
　主任調査員：株式会社エイ・テック 岡田一広
- 8 整理作業は、遺物洗浄・注記等基礎的な作業は調査と並行して実施し、遺構図面作成、遺物実測、報告書作成・編集は調査終了後、平成26年6月30日まで実施した。
- 9 本書の執筆は、第1章・第2章第1節を廣瀬が、その他を岡田が担当し、編集は岡田が実施した。
- 10 出土遺物と調査に関わる資料は、氷見市教育委員会生涯学習・スポーツ課が保管している。
- 11 遺跡の略号は「KRKD-2013」とした。
- 12 土層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色貼』に準じている。
- 13 遺物の施釉陶磁器の釉のかかる範囲は一点鎖線で表した。
- 14 調査参加者は次のとおりである、
- 発掘作業員：高岡誠一・中山賢富・二口誠治・山崎一男
　発掘補助員：桶谷　潤・坂田智恵・松本真由美
　整理作業員：相佐啓子・阿原智子・上田恵子・坂田智恵・前馬みゆき・松本真由美・三島幸代・南　真弓・渡辺悦子
　（以上、株式会社エイ・テック）
- 15 調査・本書作成にあたり、下記の方々・機関から多大なご教示・ご協力を得た。記して感謝申し上げる。
- 鞍川土地改良区 吉田道路株式会社 氷見市建設農林水産部建設課
　（敬称略・五十音順）

目 次

第1章 遺跡の環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 調査の概要	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査の経過	5
第3章 調査の成果	7
第1節 基本層序	7
第2節 遺構	7
第3節 遺物	8
第4章 まとめ	10

表 目 次

第1表 周辺の遺跡対応表	3
第2表 遺物観察表	9

図 目 次

第1図 周辺の遺跡 (1/25,000)	2
第2図 鞍川地区の既往調査位置図 (1/2,500)	4
第3図 鞍川D 遺跡 調査区位置・グリッド配置図 (1/1,000)	6
第4図 基本層序模式図 (1/20)	7
第5図 調査区全体図 (1/250)	7
第6図 S P01実測図 (1/40)	8
第7図 調査区遺構配置図 (1/100)	11・12
第8図 調査区北壁土層断面図 (1/40)	13
第9図 遺構実測図 (平面図: 1/80、断面図: 1/40)	14
第10図 遺物実測図 (1/3・1/4)	15

写 真 図 版 目 次

図版 1	遺跡周辺空中写真 (1952年米軍撮影)
図版 2	1. 調査区全景 (東から) 2. 調査区全景 (西から)
図版 3	1. 溝S D01全景 (北西から) 2. 溝S D01拡張部全景 (南東から) 3. 溝S D01土層 (南東から)
図版 4	遺物写真

第1章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

氷見市は、富山県の西北部に位置し、能登半島の基部東側にあたる。昭和27年の市制施行から昭和29年までに旧太田村を除く氷見郡1町17村が合併し、現在の氷見市が成立した。面積は約230km²、人口は約5万1千人である。市域は、北・西・南の三方が標高300~500mの丘陵に取り囲まれ、東側約20kmの海岸線をもって富山湾に面している。

鞍川地区の北側に当たる上庄川下流左岸の加納地区の平野には、弥生時代から古代にかけて加納潟（仮称）という潟湖が所在したと推定される。加納潟は南北約1km、東西約0.5kmと推定され、さらに北側の余川川下流域に広がる可能性がある（氷見市1999・2000）。

鞍川地区では昭和30年代に土地改良が実施され、周辺には整然とした水田が広がっている。また、鞍川D遺跡の北側には、氷見北ICのアクセス道路として整備された一般国道415号（通称、鞍川バイパス）が横断し、西側は、平成23年度に開業した金沢医科大学氷見市民病院の敷地となる。

今回の本調査の対象地は、標高約5.3mに位置し、現況は水田である。

第2節 歴史的環境

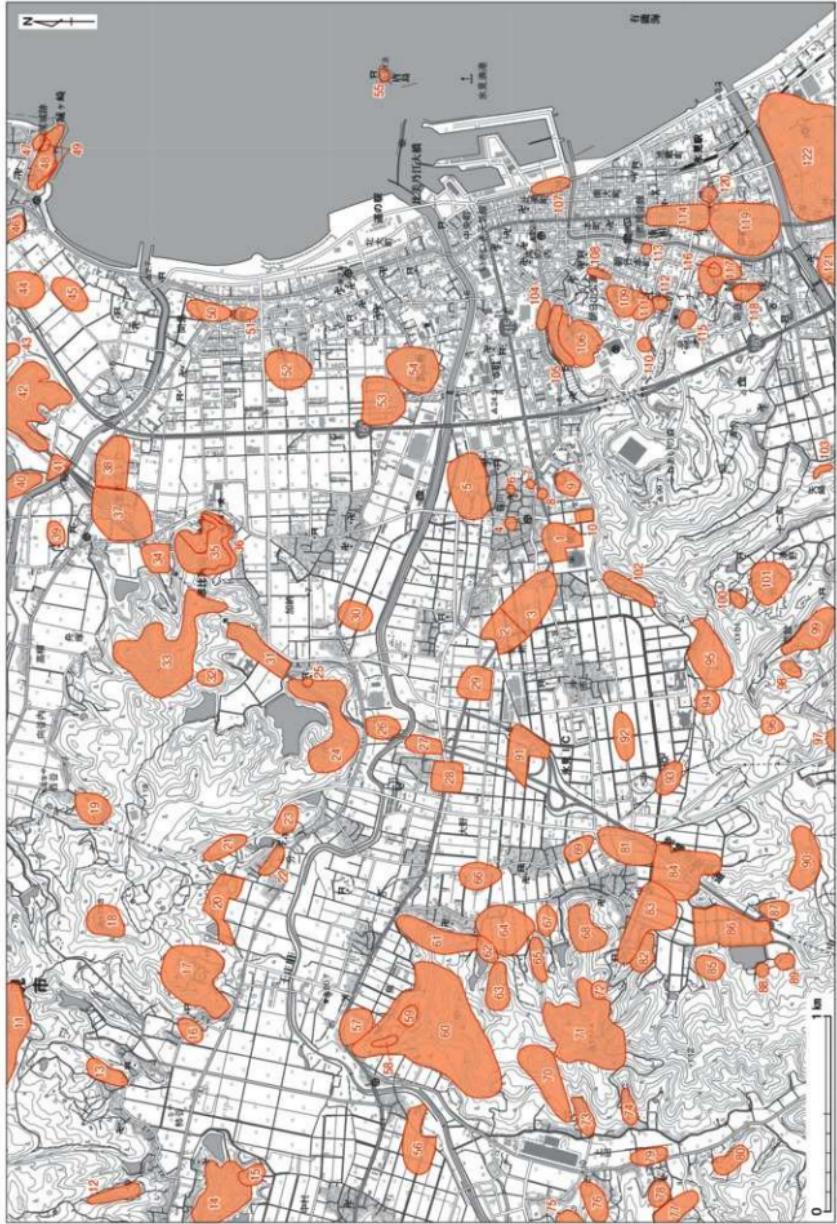
以下、上庄川流域の遺跡について下流域を中心に概観する（氷見市2002）。

上庄川流域の縄文時代の遺跡は上流丘陵部と下流域に散在している。下流域の縄文遺跡として縄文後期の鞍川寺田遺跡がある。有磯高校のグランド造成工事で縄文土器が出土したというが、詳細は不明である。

上庄川流域は弥生時代に入って積極的な土地利用が行われていったと考えられる。弥生時代中期の遺跡として鞍川中B遺跡がある。鞍川中B遺跡は加納潟に流れ込む流路のほとりの低地に営まれた遺跡と考えられる。弥生時代後期の遺跡として鞍川金谷遺跡が、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺跡として鞍川横羽毛遺跡、糠塚南遺跡、沖布A遺跡がある。いずれも加納潟を廻る丘陵縁辺部から微高地に営まれた遺跡である。弥生時代終末期には朝日山丘陵の丘陵上に朝日大山遺跡が、丘陵裾部に鞍川E遺跡が営まれた。

古墳時代には、上庄川流域から加納潟周辺にかけての丘陵上に多くの古墳が築かれた。その数は、上庄川流域で31群183基、加納潟周辺で6群71基となり、氷見市内で最も古墳が集中する地域である。これはこの地域が、氷見市内で最も広く安定した平野が開け農業生産に適していたこと、白が峰越えのルートをはじめとする能登と結ぶ街道がこの谷を通っていたことなどが要因と推測される。だが鞍川南方の丘陵上を見ると、丘陵の反対側の布勢湖（現在の十二町潟）に面した朝日山周辺には古墳群が立地するものの、加納潟に面する鞍川側では古墳の存在は確認されていない。

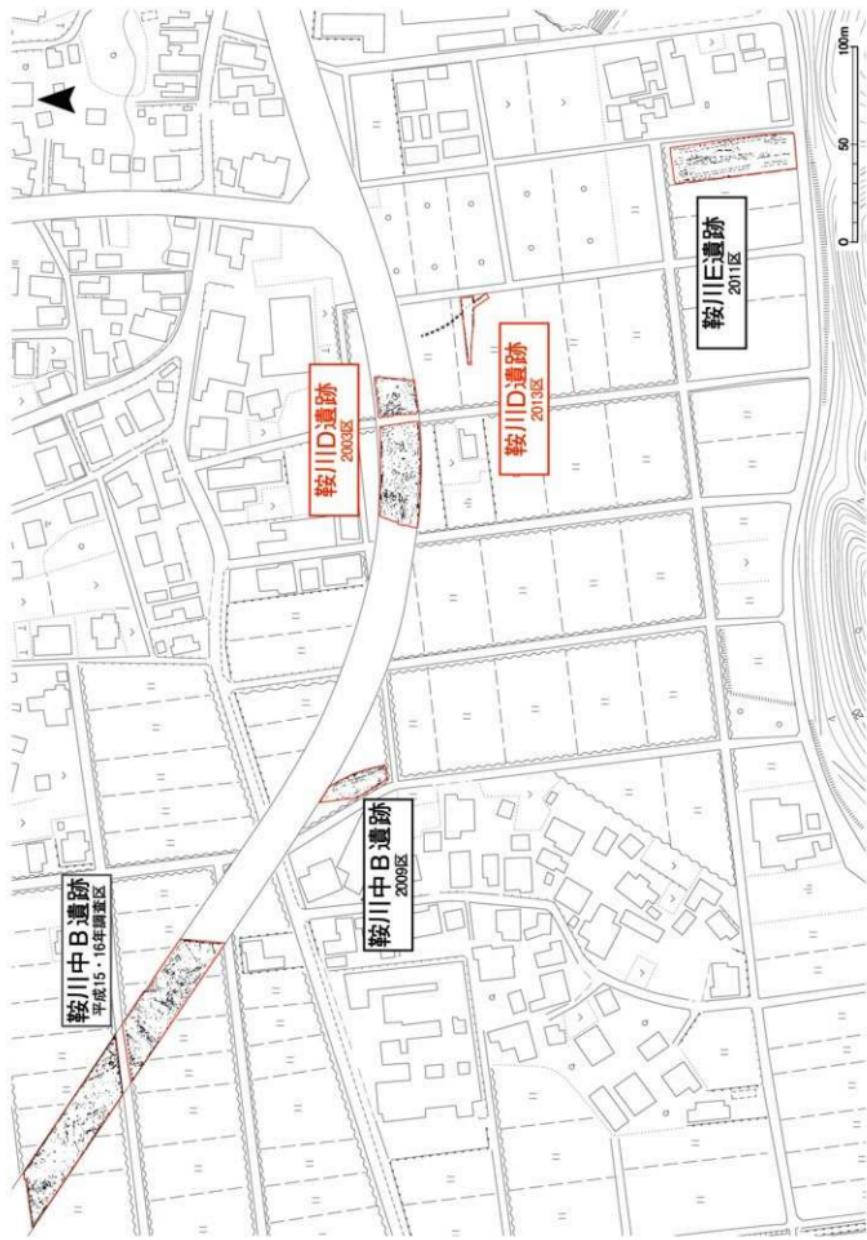
古代・中世においても上庄川中下流域には遺跡が広く分布している。中世には上庄川流域から十二町潟周辺を範囲とする阿努莊という庄園があり、上庄川の水運、能登を結ぶ陸運などの要素を背景として古墳時代に引き続いで積極的な開発が行われていたと考えられる。鞍川D遺跡では13世紀代の集落が、鞍川E遺跡では12世紀後半から13世紀前半の集落が、鞍川中B遺跡では中世から近世の溜池状遺構が見つかっている。なお、室町・戦国時代には、国人士豪鞍河氏が現在の鞍川周辺を本貫地としていたとされる。



第1図 周辺の遺跡 (S = 1 / 25,000)

%	道 路 名	遺跡 番号	種 别	時 代	%	道 路 名	遺跡 番号	種 別	時 代
1	鶴川 D 通跡	250	歩道	古代・中世	62	京 A 通跡	188	散布地	縄文・古代
2	鶴川中 A 通跡	308	散布地	古代・近世	63	谷内古墳群	341	古墳	古墳後期
3	鶴川中 B 通跡	354	歩道	弥生・古代～近世	64	京 C 通跡	256	散布地	古代
4	鶴川 A 中世墓	138	中世墓	中世	65	中尾吉城古墳群	342	古墳	弥生末～古墳初期
5	鶴川金古通跡	52	散布地	弥生後期	66	大野沢通跡	211	散布地	縄文・古代
6	鶴川 E 通跡	224	散布地	中世	67	京 B 通跡	189	散布地	古墳・中世
7	鶴川湖底社通跡	190	散布地	中世・近世	68	中尾鍋山古墳群	343	古墳	古墳後期
8	鶴川 B 中世墓	139	中世墓	中世	69	大野南通跡	255	散布地	古代・中世
9	鶴川寺内通跡	97	散布地	縄文後期	70	上田古墳群	330	古墳	弥生・古墳
10	鶴川 E 通跡	264	散布地	不明	71	千久里塚跡	50	埴輪	西北朝・戦国
11	水谷城跡	345	城郭	南北朝・戦国	72	竹里山の岩屋堂	142	祭祀	中世・近世
12	桜谷石谷内古墳群	353	古墳	古墳中～後期	73	上田丸山通跡	214	散布地	古代
13	桜谷椎木山通跡	156	駁頭	不明	74	上田日通跡	215	散布地	中世
14	中村城跡	33	城郭	戦国	75	上田 C 通跡	221	散布地	古墳後期
15	中村株穴群	177	株穴	飛鳥白鳳	76	上田 D 通跡	222	不明	古墳
16	桜谷大ノ通跡	191	散布地	中世	77	上田正通跡	223	散布地	古代・中世
17	桜谷土塗山古墳群	216	古墳	古墳中～後期	78	上田御坂通跡	212	散布地	縄文・古墳・少部分
18	高塚通跡	18	丘陵地	中世	79	上田下通跡	258	散布地	古代
19	余川寺 A 谷内通跡	47	散布地	古代・近世	80	上田 G 通跡	289	散布地	中世
20	七分一古門通跡	295	散布地	古代・中世	81	神明北通跡	368	集落	古代・中世
21	七分一通跡	101	散布地	弥生後～北・古墳後	82	中尾甲山古墳群	344	古墳	弥生・古墳
22	七分一 B 通跡	259	散布地	古代・中世	83	中尾守寺跡	39	今聞	古代・中世
23	七分一古墳・古墓	328	古墳・中世墓	古墳・中世	84	中尾新谷内通跡	49	集落	古代・中世
24	加納南古墳群	327	古墳・城郭	古墳・中世	85	中尾辻子山古墳	345	古墳	古墳後期
25	加納中高塚	31	結果	不明	86	中尾甲山通跡	316	集落	弥生・古墳・古代
26	七分一第1通跡	372	集落	中世	87	中尾鍋山古墳群	48	株穴	飛鳥白鳳
27	大野中通跡	373	集落	古代	88	中尾ガメ山通跡	120	耕作跡	中世
28	KB - 3 通跡	310	散布地	古代	89	中尾山通跡	187	散布地	古代
29	KB - 2 通跡	309	散布地	古代	90	中尾高塚古墳群	362	古墳	古墳後期
30	加納桜木通跡	194	散布地	古代	91	大野江通跡	317	集落	弥生・近世
31	加納谷内通跡	373	集落	縄文・古墳～後期	92	冲布 A 通跡	92	散布地	古代
32	加納新谷古墳群	326	古墳	古墳	93	麻原通跡	253	散布地	縄文・古代・中世
33	木谷城跡	30	城郭	南北朝	94	冲布 C 通跡	252	散布地	古代・中世
34	福留天保通跡	374	集落	弥生・古代～近世	95	冲布 A 通跡	51	散布地	弥生後期～古代
35	加納桜子山古墳群	150	古墳	古墳前～後期	96	寛室 A 通跡	62	丘陵地	中世
36	加納横六群	32	株穴	古墳後～飛鳥白鳳	97	恵洋通跡	100	不明	古代・中世
37	福留天保北通跡	375	集落	古代・近世	98	寛室モノマコ通跡	192	中世墓	中世
38	福留山上通跡	260	散布地	古墳・中世	99	寛室 B 駁頭	106	散布地	縄文・中世
39	福留前山通跡	99	散布地	弥生・古代・中世	100	十二町矛山古墳群	246	古墳少	古墳少
40	福留タケシ山古墳群	304	古墳	古墳	101	十二町矛山通跡	242	散布地	古代・中世
41	福留オヤサ古通跡	366	集落	古代・中世	102	粗田桜毛山通跡	251	散布地	弥生後～古墳前期
42	福留オヤサ古墳群	303	古墳	古墳	103	十二町矛山場跡六群	385	株穴	飛鳥白鳳
43	阿尾鳥古墳群	302	古墳・城郭	古墳・中世	104	七軒町通跡	163	散布地	縄文後期
44	阿尾鳥 A 通跡	88	集落	縄文後期～古代・中世	105	網日山通跡	219	城郭	中世
45	阿尾鳥山田通跡	110	散布地	縄文・古代・中世	106	網日大山通跡	361	集落	弥生末
46	阿尾鳥山古墳群	26	城郭	中世	107	比美浜通跡	96	散布地	古代・中世
47	阿尾通跡	23	散布地	弥生・古墳	108	葛原寺中世墓群	133	中世墓	中世
48	阿尾城跡	25	城郭・中世墓・散布地	弥生後・中世・近世初期	109	土手印中世墓群	53	中世墓・寺院	古代・近世
49	阿尾城山横穴群	24	横穴	飛鳥白鳳	110	網日谷山横穴	140	株穴	飛鳥白鳳
50	福留三ツ原通跡	28	不明	古代	111	網日寺山古墳群	292	古墳	古墳中期
51	福留三郎野通跡	59	散布地	古代・中世	112	網日井山古墳	55	古墳	古墳
52	加納金宝通跡	109	散布地	古代・中世	113	網日横崎通跡	210	中世墓	中世
53	渕野口台通跡	108	散布地	古代・中世	114	網日町通跡	145	不明	中世
54	渕野口 A 通跡	107	散布地	古代	115	網日本瀬地通跡	54	散布地	縄文少～後期
55	唐島通跡	225	散布地	中世・近世	116	網日十字路通跡	85	耕作跡	中世
56	中村大通跡	387	散布地	古代・中世	117	網日貝塚	56	貝塚・集落	縄文・中世
57	京極山通跡	257	散布地	古代	118	網日山古墳群	134	古墳	古墳
58	篠毛 A 通跡	49	散布地	縄文・古墳	119	岩上通跡	57	散布地	縄文・古代
59	篠毛 B 通跡	41	散布地	古墳	120	伊勢玉持社中世墓群	58	散布地・中世墓	縄文・古代・中世
60	京吉墳群	42	古墳	古墳中～後期	121	十二町矛山耕水農場跡	115	散布地	縄文後～地蔵・古代
61	京桂古墳群	329	古墳・城郭	古墳・中世	122	京北通跡	236	散布地	弥生・古代・近世

第1表 周辺の遺跡対応表



第2図 鞍川地区の既往調査位置図 (S = 1 / 2,500)

第2章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

平成23年9月に金沢医科大学氷見市民病院がオープンしたことにより、市民病院の周辺に調剤薬局やコンビニエンスストア等が相次いで建設された。今回調査を実施したドラッグストアの建設も、そうした状況のもと計画されたものである。

平成23年度中より、鞍川D遺跡の範囲内、平成15年度に鞍川バイパスの建設に先立つ本調査を実施した調査対象地の隣接地においてドラッグストアの建設が計画されていることが明らかとなった。そのため、開発者である吉田道路株式会社と遺跡の保護協議を行った。当該地は、先述したように平成15年度の本調査対象地と隣接しており、本調査が必要となる可能性が非常に高いことを伝えたが、本調査も見込んだ上で開発を続行するとの回答であったため、試掘調査の実施に向けて動き出した。

試掘調査は平成24年度の実施が決まったが、当該地は水田として使われているため、調査は秋の収穫後になった。なお、試掘調査の実施にあたり、吉田道路株式会社より、重機およびオペレーターの提供を受けた。

事業対象地のうち、アスファルト舗装となる駐車場については掘削を伴わず、また擁壁を設置する敷地外周については工事立会とすることで、試掘調査は不要と判断した。そのため試掘調査は、事業予定地3,420m²のうちドラッグストア店舗が建設される825m²について対象とした。ただし、事業予定地は、一般国道415号（鞍川バイパス）の建設に先立ち本発掘調査を実施した範囲と北西側で接している一方、南側は市道鞍川靈峰線バイパスに先立つ試掘調査で本調査発掘調査の対象外とされた地点に隣接する。そのため、造構が残存する可能性が低い南側へ建物の建設位置を変更し、本発掘調査の対象面積を減らすことも考慮し、建設予定地西側と南側に試掘トレンチを追加して調査を行った。

試掘調査の結果、調査対象地の北西側から中央部にかけて造構・遺物が確認された。出土した遺物は中世珠洲焼を中心に、中世土師器、近世磁器が含まれる。なお、調査区南側には造構の広がりは確認されなかった。これは、平成23年度に調査区南側隣接地において実施した市道鞍川靈峰線バイパス整備事業に先立つ試掘調査の結果とも合致する。この試掘調査の成果から、事業対象地の北側については、開発行為に先立ち本発掘調査が必要と判断した。

試掘調査後に実施した開発者との協議により、建物の建設位置を南側にずらすことで本発掘調査の対象面積を極力減らすよう設計変更を行うことになった。その結果、本発掘調査の対象面積は125m²となった。

本発掘調査は、調査主体者である氷見市教育委員会の監理のもと、民間調査機関が実施することで調整を行った。平成25年度には、調査は株式会社エイ・テックが担当することが決定し、現地調査を平成25年中、整理作業を平成26年6月までに実施することになった。平成25年11月18日付の「鞍川D遺跡発掘調査事業に関する協定書」により、三者間での協定を締結し、現地調査を開始した。

第2節 調査の経過

（1）調査の方法

本調査にあたって、表土を重機で掘削後にグリッドを世界測地系（2011）平面直角座標系第VII系を用いて5m間隔に設定し、東西をY軸、南北をX軸とした。X軸方向に南からアルファベット、Y軸方向

に西からアラビア数字を割り振ってグリッド番号を設定した（第3図）。

表土掘削後、引き続き側溝掘削、遺構検出を実施した。遺構は半蔵もしくはセクションベルトを残して掘削し、土層を記録した後完掘した。遺構の測量はトータルステーションにより平板測量を実施した。

（2）調査の日程

事前準備として平成25年11月26日に測量用基準点を設定した。12月2日に事務所を設置した。

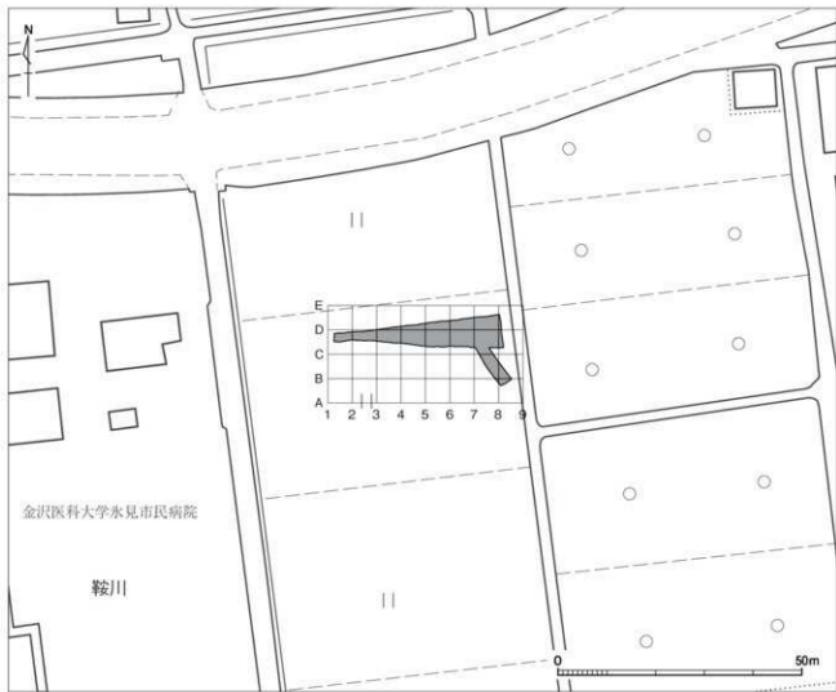
12月3日より調査を開始した。バックホウによる表土掘削を開始し、表土除去が済んだ箇所から順次人力による遺構検出および側溝掘削を実施した。S A01・S D01を検出し、検出写真撮影後遺構掘削を実施した。

12月4日に土層図作成・グリッド杭打設を実施した。

12月5日に遺構掘削を完了し完掘撮影を実施した。またトータルステーションにより平板測量を実施した。S D01は当初設定した調査区より南東方向へ延びていることが判明したことにより、この延長上を拡張し調査を実施することとした。

12月9日にS D01より西側を埋め戻し、S D01まで埋め戻しが完了した時点でS D01南側の表土を除去し拡張した。人力で遺構掘削し、写真撮影およびトータルステーションにて平板測量を実施した後、埋め戻した。

12月13日に資材撤収およびハウスを撤去して調査を終了した。



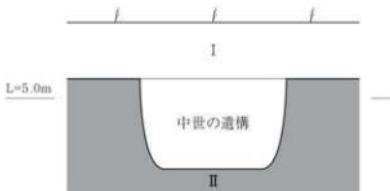
第3図 鞍川D遺跡 調査区位置・グリッド配置図 (S = 1/1,000)

第3章 調査の成果

第1節 基本層序

調査区は東西方向に細長く設定しており、また圃場整備で削平されているため水平である。

基本層序は、第Ⅰ層：水田耕作土（にぶい黄褐色シルト）、第Ⅱ層：地山（黄褐色シルト）である。第Ⅰ層は厚さ14~23cmで、東側から西側へ若干厚く堆積する。遺構検出面は第Ⅱ層上面である。



表土 Ⅰ Hue10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
地山 Ⅱ Hue10YR5/6 黄褐色シルト

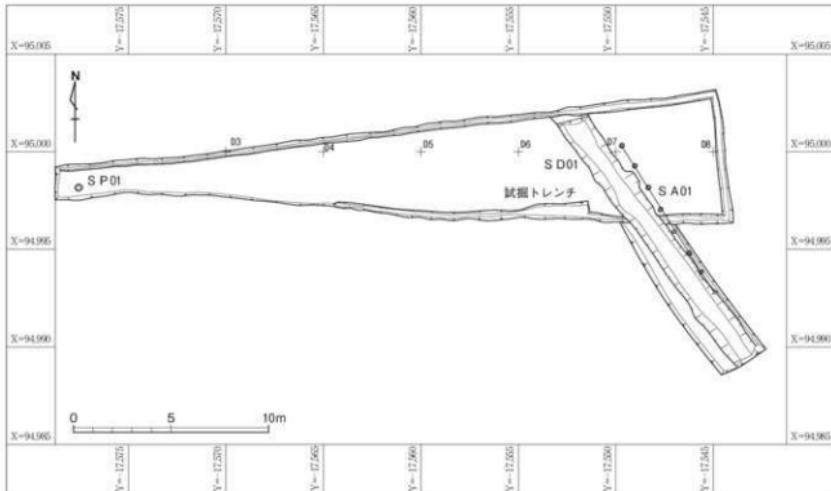
第4図 基本層序模式図 ($S = 1/20$)

第2節 遺構

今回の調査では、柵址（SA）、溝（SD）、ピット（SP）を検出した。

柵址

SA01（第8図） 調査区東側、グリッドB 7~D 7の範囲に位置する。柱穴8基以上からなる柵址で、南側のSP09はSD01に切られる。軸方位はN-32°Wである。柱穴の芯々間における検出長は8.95mで、柱間は1.30mを基本とし、北から1.25m-1.30m-1.30m-1.35m-1.30m-1.15m-1.30mを測る。柱穴は、平面形が円形で直径0.19~0.26m、深さ0.15~0.38mを測る。遺物は出土していない。



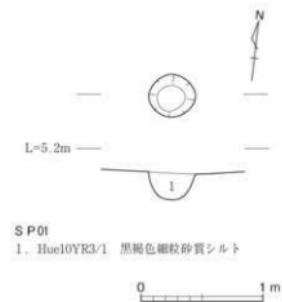
第5図 調査区全体図 ($S = 1/250$)

自然流路・溝

S D01（第9図） 調査区東側、グリッドA 7～D 6の範囲に位置する。南東～北西方向に走る流路である。検出長16.1m、最大検出幅1.8m、深さ11～47cmを測る。出土した遺物は、2層と3層との境から大半が出土した。遺物は、古代土師器、古代須恵器、珠洲焼、瀬戸美濃が出土した。

ピット

S P01（第6図） 調査区西側、グリッドC 1の範囲に位置する。平面形は直径0.4m、深さ13cmを測る。遺物は出土していない。



第6図 S P01実測図 (S = 1/40)

第3節 遺物

今回の調査では、古代土師器、古代須恵器、珠洲焼、瀬戸美濃、肥前、伊万里、近代陶磁器、鉄滓が遺物整理箱3箱分出土した。本書ではそのうち16点を図示した。遺物の記載は種別ごとに行い、観察表にデータを記載した。

なお、珠洲焼は吉岡康暢氏の器種分類および7期編年（吉岡1994）に準拠した。暦年代はI期：12世紀後半、II期：13世紀前半、III期：13世紀中葉～1270年代、IV期：1280年代～1370年代、V期：1380年代～1440年代、VI期：1450年代～1470年代、VII期：1480年代～1500年代と比定されている。

土師器

1は椀の口縁部である。

須恵器

2は杯Aの底部である。底部は回転ヘラ切りである。3は杯Bの底部である。低い高台が付く。

珠洲焼

珠洲焼は、S D01からI期～IV期まで出土しているが、II期を主体とし、IV期は僅かの出土である。4～9は片口鉢である。4は口縁部である。オロシ目幅は2.0cmに9条である。口縁部内面には印花文を施す。II期に属する。5は口縁部である。オロシ目幅は1.0cmに7条である。II期に属する。6は底部が静止糸切りである。II期に属する。7は底部が静止糸切りである。II期に属する。8は底部である。オロシ目は波状に引かれ、オロシ目幅は3.0cmに9条である。II期に属する。9は底部で静止糸切りである。I～II期に属する。10は壺瓶類の肩から胴上部にかけてのものである。波状文を3条施す。11～13は壺である。11・12は口縁部である。いずれもII期に属する。13は底部で離れ砂痕がある。14は壺・壺類の胴部である。外面のタタキは菊花（車輪）文である。I～II期に属する。

瀬戸美濃

15は瓶子の口縁部である。外面に灰釉を施釉する。

肥前

16は内野山窯の皿である。内面は銅綠釉を施釉し、蛇の目釉剥ぎを施す。高台は削り出し高台である。

No.	遺物	層位	種類	器種	法量			胎土	焼成	色調		残存率
					口径	器高	底径					
1	S D01	II層	土師器	碗	12.0	(2.4)	—	密	やや良	10YR7/4	に赤V黄褐色	口縁部 1.5/12
2	S D01	II層	須恵器	杯A	—	(2.0)	8.0	密	良	10Y7/1	灰白色	底部 1.1/12
3	S D01	II層	須恵器	杯B	—	(1.5)	8.2	密	良	10BG6/1	青灰色	底部 2.5/12
4	S D01	II層	珠洲	片口鉢	37.2	(9.0)	—	密	良	N6/0	灰色	口縁部 0.7/12
5	S D01	II層	珠洲	片口鉢	29.0	(4.9)	—	密	良	10BG4/1	暗青灰色	口縁部 0.8/12
6	S D01	II層	珠洲	片口鉢	24.8	9.1	12.8	密	良	10GY5/1	綠灰色	口縁部 1.1/12
7	S D01	II層	珠洲	片口鉢	18.2	7.7	9.0	密	やや良	7.5Y7/1	灰白色	口縁部 1.5/12
8	S D01	II層	珠洲	片口鉢	—	(5.6)	14.4	密	良	10Y7/1	灰白色	底部 2.5/12
9	S D01	II層	珠洲	片口鉢	—	(5.1)	10.0	密	良	7.5Y6/1	灰色	底部 1.1/12
10	S D01	II層	珠洲	壺・瓶類	—	(6.8)	—	密	良	10BG5/1	青灰色	—
11	S D01	II層	珠洲	壺	62.0	(7.9)	—	密	良	5BG5/1	青灰色	口縁部 1.0/12
12	S D01	II層	珠洲	壺	—	(5.85)	—	密	良	10YR7/1	灰白色	—
13	S D01	II層	珠洲	壺	—	(4.7)	18.0	密	良	10BG5/1	青灰色	底部 2.5/12
14	S D01	II層	珠洲	壺	—	(6.65)	—	密	良	10Y6/1	灰色	—
15	S D01	II層	瀬戸美濃	瓶子	4.4	(4.1)	—	密	良	10YR8/1 釉調 7.5Y7/2	灰白色 灰白色	口縁部 5.8/12
16	表土	肥前	碗	—	(1.6)	4.4	密	良	—	10YR8/1 釉調 7.5GY6/1	灰白色 オリーブ灰色	底部 5.0/12

法量 - 器高の()は残存高

第2表 遺物観察表

第4章　まとめ

今回の調査で得られた知見を整理しまとめにかえたい。

当調査区では、柵址1条、溝1条、ピット1基を確認した。

溝S D01は当調査に先立つ試掘調査でも確認されており、北西～南東方向へほぼ直線的に延びることが判明している。ただし、S D01の延長線上に位置する国道415号鞍川バイパスの事前調査では近年の圃場整備による削平等により検出されていない。

柵址S A01は8基のピットからなる北西～南東方向へ延びる柵址である。南側はS D01に切られており、さらに南側へ延びる可能性もある。S A01とS D01はほぼ平行しており、また覆土が共通するため、S A01はS D01に先行して構築されるものの、時期差はそれほど離れていないものと推定できる。S D01の出土遺物は珠洲Ⅱ期が主体としていることから13世紀前半に位置付けでき、S A01もおおよそ13世紀前半に位置付けできる。

S A01の柱間は1.3mを基本としており、当調査区の北側に位置する鞍川D遺跡2003区Ⅲ地区S A01・03も柱間は1.3mを基本としている。2003区S A01は、同調査区S D01と平行しており同時期のものと推定でき珠洲Ⅱ期～13世紀前半に位置付けできる。したがって、13世紀前半における当遺跡周辺における柱間間隔は1.3mが一つの基準となるだろう。

S D01出土遺物は珠洲焼がほとんどを占めており、他は古代の土器・須恵器、瀬戸美濃、鉄滓である。珠洲焼はⅡ期を主体としており、2003区における調査結果とも整合する。2003区および今回の調査区では住居跡が確認されなかったが、井戸跡、溝とそれに平行する柵列があるなど集落に伴う施設が確認できているため、調査区周辺に集落が広がっている可能性が高い。

引用・参考文献

- 児島 清文 1962 『水見市地名考』 水見報知新聞社
水見市 1999 『水見市史』9 資料編7 自然環境
水見市 2000 『水見市史』6 資料編4 民俗・神社・寺院
水見市 2002 『水見市史』7 資料編5 考古
水見市 2006 『水見市史』1 通史編1 古代・中世・近世
水見市教育委員会 2006 『鞍川D遺跡 鞍川バイパス遺跡群発掘調査報告Ⅱ』 水見市埋蔵文化財調査報告第44冊
水見市教育委員会 2006 『鞍川中B遺跡 鞍川バイパス遺跡群発掘調査報告Ⅲ』 水見市埋蔵文化財調査報告第45冊
水見市教育委員会 2010 『金沢医科大学水見市民病院建設事業に伴う試掘調査概要 鞍川D遺跡 鞍川中B遺跡』
水見市埋蔵文化財調査報告第55冊
水見市教育委員会 2010 『鞍川中B遺跡Ⅱ 金沢医科大学水見市民病院建設事業に伴う発掘調査報告』
水見市埋蔵文化財調査報告第57冊
水見市教育委員会 2012 『鞍川E遺跡Ⅰ 市道鞍川雲峰線バイパス整備事業に伴う発掘調査報告(1)』
水見市埋蔵文化財調査報告第60冊
水見市教育委員会 2012 『鞍川E遺跡Ⅱ 市道鞍川雲峰線バイパス整備事業に伴う発掘調査報告(2)』
水見市埋蔵文化財調査報告第61冊
水見市教育委員会 2013 『水見市内遺跡発掘調査概報Ⅲ 稲積天坂北遺跡 鞍川D遺跡 柳田遺跡 松田江北遺跡』
水見市埋蔵文化財調査報告第62冊
水見市立博物館 2006 『特別展 竹里山の謎にせまる 一山城・寺院・鞍河氏一』
藤沢 良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
吉岡 康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館

N

E1

E2

E3

E4

E5

E6

E7

E8

B1

B2

B3

B4

B5

B6

C1

C2

C3

C4

C5

C6

C7

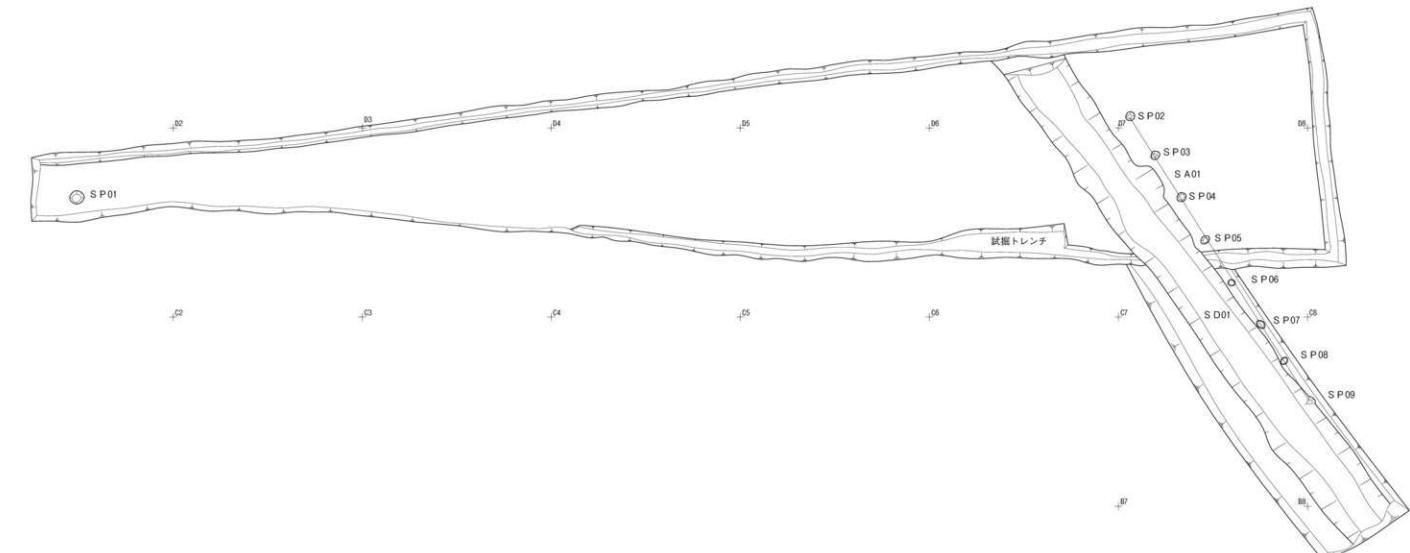
C8

D7

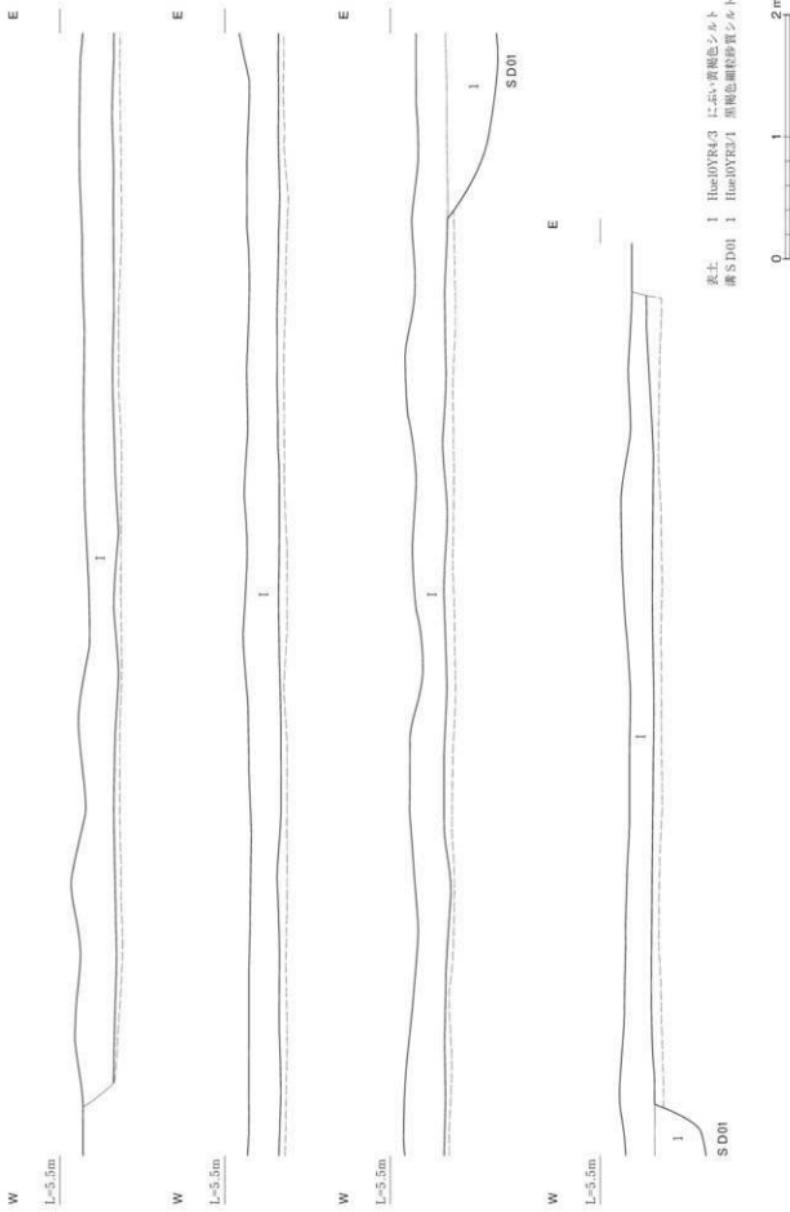
D8

E7

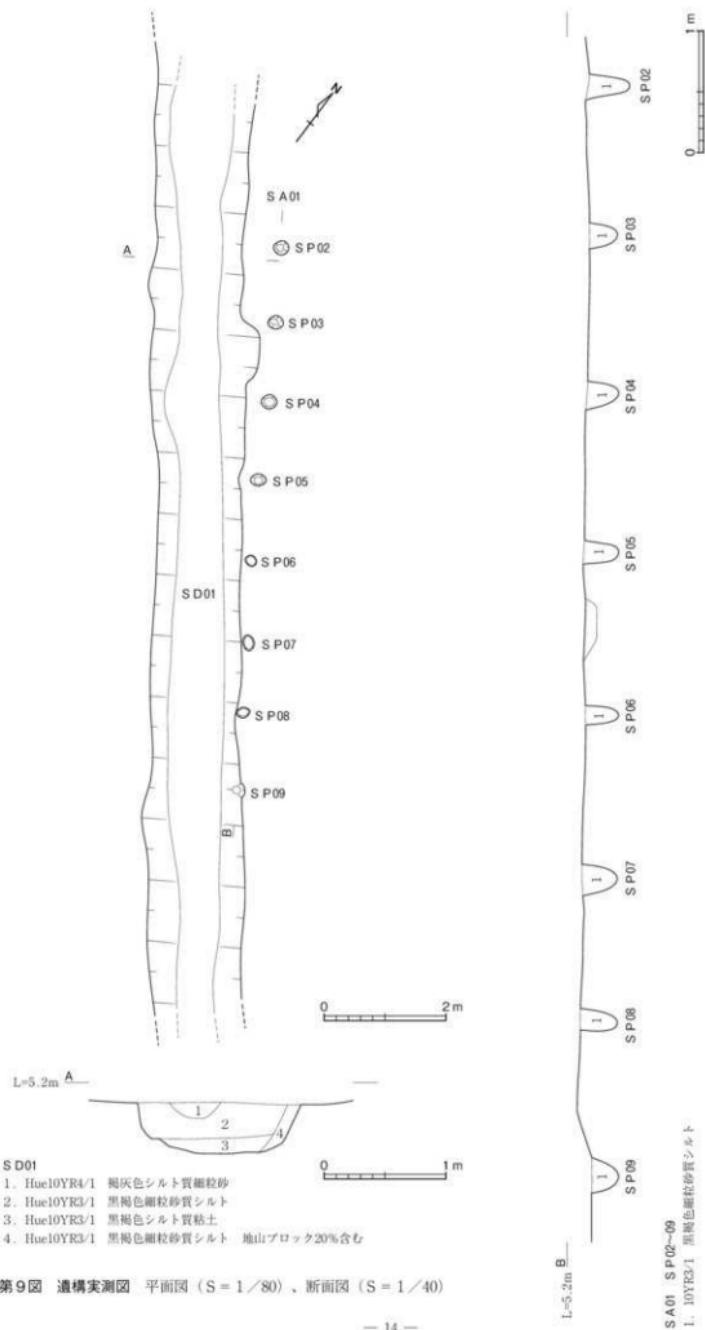
E8



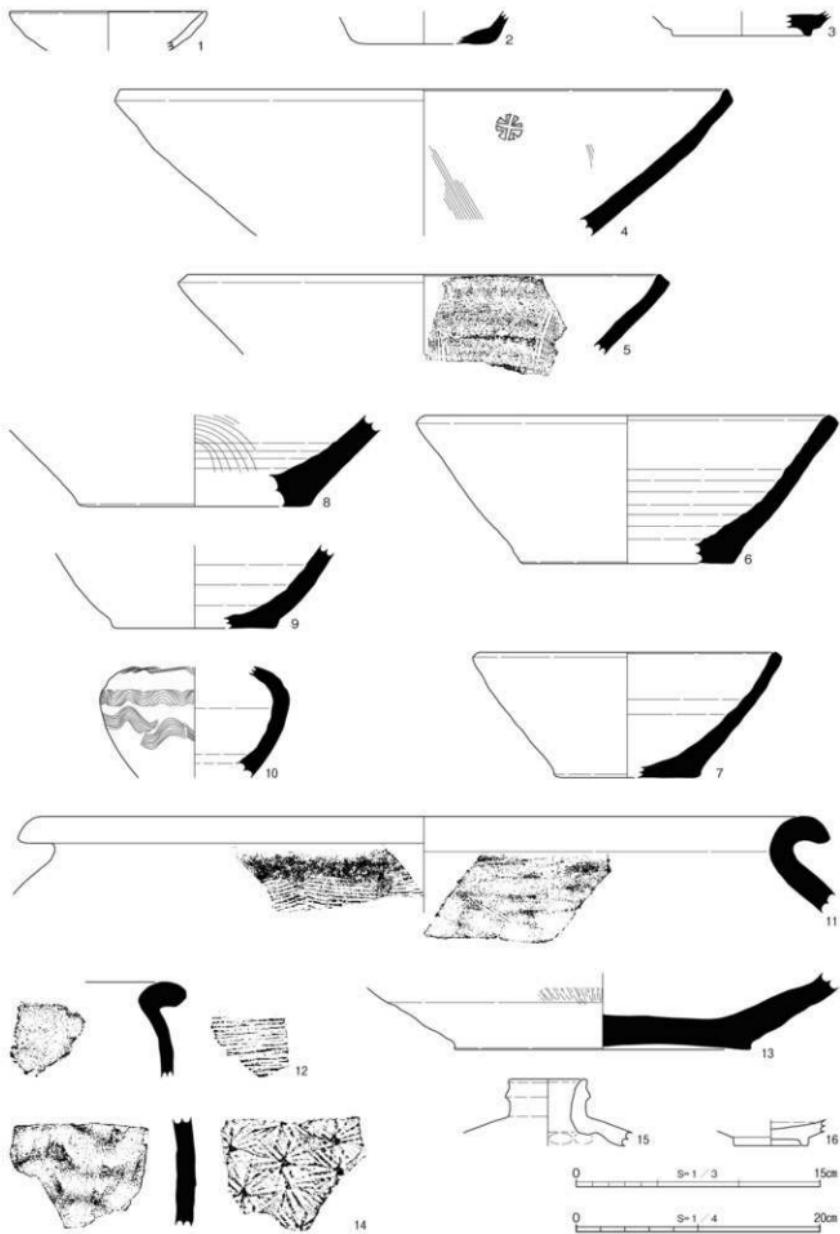
第7図 調査区構造配置図 (S = 1/100)



第8図 調査区北壁土層断面図 (S = 1 / 40)



第9図 遺構実測図 平面図 ($S = 1/80$)、断面図 ($S = 1/40$)



第10図 遺物実測図 ($S = 1/3$, 11のみ $1/4$)



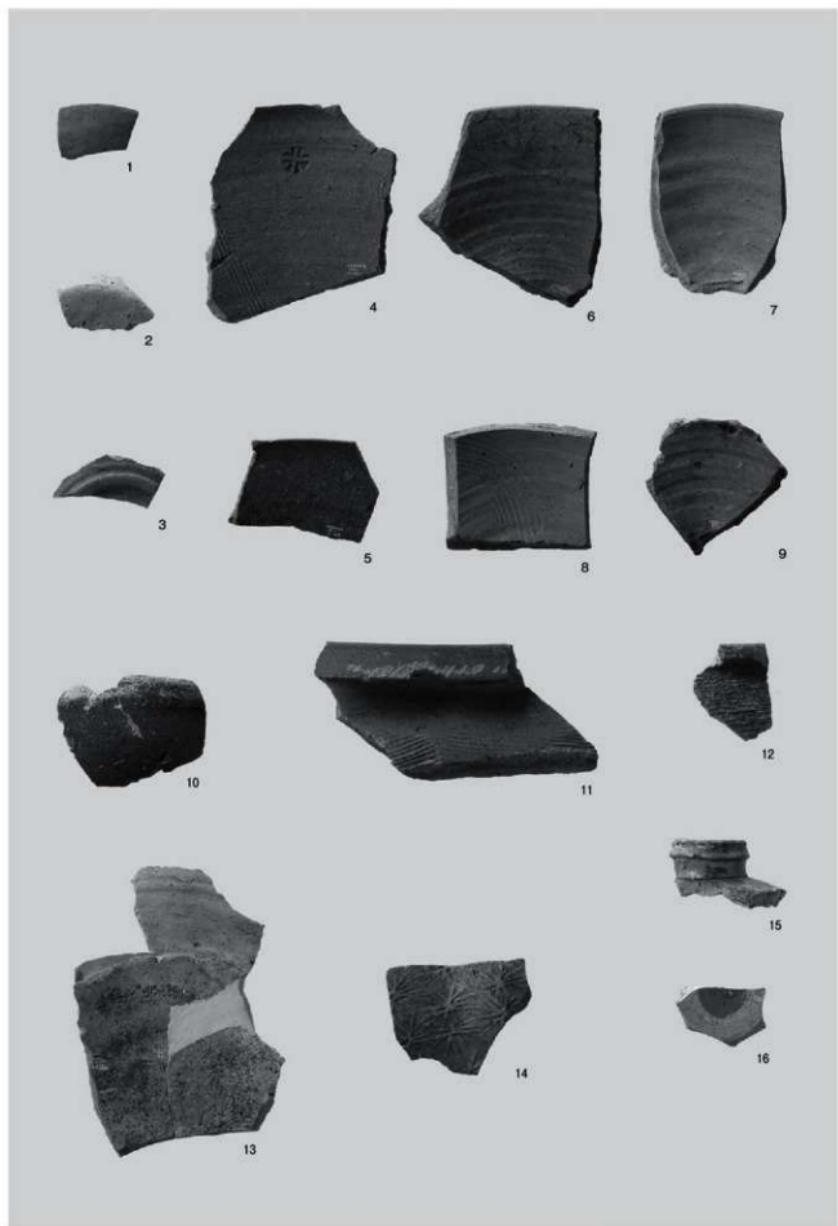
図版 1 遺跡周辺空中写真
白丸が鞍川D遺跡の位置
米軍撮影の空中写真（1952年撮影）



図版2 1. 調査区全景（東から） 2. 調査区全景（西から）



図版3 1. 溝S D01全景（北西から） 2. 溝S D01拡張部全景（南東から） 3. 溝S D01土層（南東から）



図版4 遺物写真

報告書抄録

ふりがな	くらかわでいーいせきに						
書名	鞍川D遺跡Ⅱ						
副書名	民間ドラッグストア建設に伴う発掘調査報告						
卷次							
シリーズ名	氷見市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第65冊						
編著者名	廣瀬直樹、岡田一広						
編集機関	株式会社エイ・テック						
所在地	〒939-1119 富山県高岡市オフィスパーク12番地 TEL 0766(62)0388						
発行機関	氷見市教育委員会						
所在地	〒935-8686 富山県氷見市鞍川1060番地 TEL 0766(74)8215						
発行年月日	2014年6月30日						
ふりがな 所取遺跡	所在地 市町村	コ一ド 遺跡番号	北緯 。 。 。 。 。 。	東経 。 。 。 。 。 。	調査期間	調査面積	調査原因
くらかわでいーいせき 鞍川 D 遺跡	富山県氷見市 鞍川	016205	250	36° 51' 21"	136° 58' 11"	20131203 20131209	840m ² 店舗建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
鞍川 E 遺跡	集落	中世	柵址、溝、ピット	土師器、須恵器 珠洲焼、肥前	中世の柵址・溝を検出し、土師器・須恵器・珠洲焼が出土した。		
要約	中世の柵址 S A01と溝 S D01を検出し、古代、中世の遺物が出土した。 S D01は北西から南東方向に直線的に延び、S A01はこの溝よりも古いが平行する。覆土も共通することから前後関係はみられるが時期差はあまりないものと推定できる。 S D01から13世紀前半代の珠洲焼を主体として出土した。 北側に接する2003区および本調査区でも住居跡が確認できなかったが、調査区周辺に集落が広がっている可能性が高い。						

平成26年6月13日印刷
 平成26年6月30日発行
 氷見市埋蔵文化財調査報告第65冊

鞍川 D 遺跡 II

民間ドラッグストア建設に伴う発掘調査報告
 編集 株式会社エイ・テック
 発行 氷見市教育委員会
 印刷 富山スガキ株式会社